

日和空志会第16回大会競技規定

(全日本空手道連盟組手競技規定及び同形競技規定に準ずる。)

<プログラム記載内容と同じです。>

1. 形の部：フラッグ方式のトーナメント制で行う

(1) 審判員は5名とし、状況により3名とする場合もある。また、使用出来る形は、以下の通りとする。

NO	種目	演武可能な形の種別
1	幼年～小学2年生	ベスト16までは、ピンアン、平安、鉄騎、ナイファンチ、ゲキサイ又はタイキョク（以下「基本形」という。）のいずれか。それ以降は、基本形並びに全日本空手道連盟第一及び第二指定形（以下「指定形」という。）を含む自由形とする。但し、 <u>ベスト16</u> までとの同一形も可とする（ <u>ベスト8</u> から変更可能）
2	小学3年生～小学6年生	ベスト16までは、基本形とし、それ以降は別の形で、基本形及び指定形を含む自由形とする（ <u>ベスト8</u> から変更必要）
3	中学生以上	ベスト16までは、基本形又は指定形とし、それ以降は上記に同じとする（ <u>ベスト8</u> から変更必要）

ベスト16まで→準々決勝から形の変更必要又は変更可能とする。

- (2) 二人同時演武であり、コートも狭いので「審判妨害」については減点及び反則としない。また、相手と接触しそうな場合に演武が一時止まっても同様とする。
- (3) 小学生以下については、演武前及び演武後の礼がない場合、主審が礼を促し、反則にしない。
- (4) 演武開始の短笛は、**主審**が行う。＜前回より変更＞
- (5) 判定の短笛も同様とする。同じく、勝敗のコールも主審が行う。
- (6) 試合はマスクを着用してもしなくても良い。待機中も同様とする。＜前回より変更＞
- (7) 気合は出しても出さなくても良い。＜指定箇所で気合を出さなくても減点しない。>

2. 組手の部 <2023年度新ルールは適用しない>

- (1) 審判員は、規定通り6名（主審・副審4名・監査）とするが、状況により4名（主審・副審2名・監査）とする場合もある。
- (2) トーナメント制で全て1分間フルタイム、4ポイント差差とする。
- (3) 通常の大会に準ずる安全具を着用する。詳細は、下表（次ページ）の通りとする。

NO	安全具の種類	着用 の 義 務 等
1	メンホー	全員必着。全空連公認のものとする。
2	マウスシールド等	マウスシールド着装又は開口部を塞ぐ等は任意。
3	拳サポーター	全員必着。種類を問わない。但し、赤（青）は赤色（青色）。
4	ボディープロテクター	全員必着。種類を問わない。内着原則で外着も可。
5	セーフティーカップ	小学3年生以上男子必着。それ以外の男子は任意。
6	シンガード	全員必着。種類を問わない。但し、赤（青）は赤色（青色）。
7	インステップガード	全員必着。種類を問わない。但し、赤（青）は赤色（青色）。

<「種類を問わない」：安全上問題があると判断した場合は当該安全具着用を認めない>

- ① 拳サポーター：全参加者着用する。なお、色は白も可とし、リバーシブルを含む赤青を使用する場合には、自分の色と反対の色は不可とする。
 - ② ボディープロテクター：成年有段男子のみ任意とし、他は、全参加者着用する。なお、中着けを原則とするが、外着も可とする。
 - ③ メンホー：全参加者着用する。
 - ④ セーフティーカップ：小学3年生以上の男子は全参加者着用する。なお、幼年から小学2年生までの男子も着用が望ましい。
 - ⑤ シンガード：全参加者着用する。
 - ⑥ インステップガード：全参加者着用する。
 - ⑦ 小学生以下は、「12歳未満ルール」を適用する。（上段の蹴りはスキンタッチでも罰則並びに投げ及び足払いは不可＝罰則）
 - ⑧ 中学生は「12歳～13歳（14歳未満）ルール」を適用する。上段については、小学生以下に同じ。投げについては、一般には禁止されていないが、この大会においては投げ技は（原則ウオーニング等を科さないが）禁止とする。＜審判は投げの態勢に入ったら止める。＞前回と変更なし
- (4) 高校生は、カデットルールを採用する。但し、高校生が、成年と競技を統合した場合には、「一般組手」としてシニアルール（一般の大人のルール）を適用する。
- (5) 反則は厳しく取るようにする。選手は、カテゴリー1の反則の場合には、相手に対して、一歩前に出て、（ルールでは決まっていないが常識と言う意味で）しっかり謝る。
- (6) 試合はマスクを着用してもしなくても良い。待機中も同様とする。
- <前回より変更>**
- (7) 気合は出しても出さなくも良い。
- (8) メンフォーには、飛散防止策を講じても良いし、講じなくても良い。
- <前回より変更>**
- (9) 試合終了後、手洗い・顔洗い及び安全具の消毒を励行する。

3. その他事項

(1) 服装に関する事項

① 審判員

全空連の規定に似たもの（紺系統のブレザー、グレー系統のズボン、ネクタイ及び上履きの靴（裸足も可））とし、同一でなくても差し支えない。紺系統のポロシ

シャツも可とし、ワイシャツの場合にはノーネクタイも可とする。

＜前回よりの変更＞

② 選手 小学2年生以下はひらがな書きのゼッケン（形式指定なし）を付ける。

また、マイ帯の使用を認める。なお、主催者は赤帯青帯を用意しない。

(2) 形及び組手競技での礼等について

① 形及び組手競技での全体の礼については、そのコートでの競技の開始時とそのコートでの決勝戦（コート決勝を含む。）の終了時のみとする。補助役員は、各試合終了後、勝った選手を、赤又は青のサイドに誘導する。

② 形の入退場方法は、全て、下記の通りに「超簡易」方式とする。

(3) 補助役員について

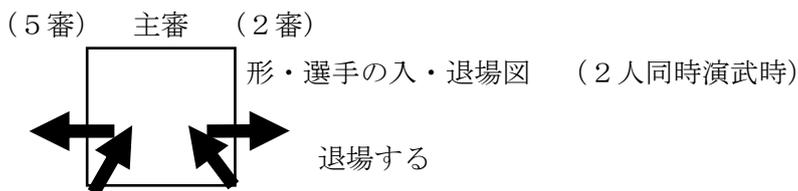
補助役員は、各コート6名とする。

(4) 召集及び色分けについて

召集及び色分けの担当チーム(招集担当)を、コートの補助役員とは別に1コート分で2名を配置する。コートの補助役員は、自分のコートの競技がベスト8（準々決勝）に進んだら、次の競技の招集の要請を、招集担当に直接行う。メインアリーナ招集場所には、スタンドマイクを設置するので、招集担当はそのマイクを使用して自ら招集を行う。召集後に、試合順に赤と青に分けて、整列させ該当のコートに誘導し、次の競技がスムーズに開始出来る様にする。尚、練習会場の武道場に、本部要員を配置し集合時間の情報提供を行う。但し、集合は参加者の自己判断（＝自己責任）とする。

全ての形競技（フラッグ制）での入退場の仕方（「超簡易」）

- 1 斜め入場で直接自分の演武位置に行く。（演武線は目安とする。）
- 2 赤より礼をして形の名前を言い、続いて青が礼をして形の名前を言う。
その後、主審が端笛を吹き、赤青が自分のリズムで演武を開始する。
- 3 終了したら、演武開始位置で待機する。（下がって場外に戻らない。）
＜開始線で判定を待つ。＞
- 4 判定が終了したら、正面に礼をして赤は左に、青は右に出る。
＜後ろに下がらず、左右に移動してコート内から出る。＞
- 5 勝者は、次の色の場所に移動し、敗者は、アリーナから出る。



(4 審) 赤 (3 審) 青 (3 審) ※ 礼はコート内での3回
選手待機位置 (演武前・演武後・判定後)

＜入退場図は、横浜市空手道連盟のご好意により使用させて頂いております。＞